

中大連携講座 中学2年サイエンスセミナー『化学が変えた私たちの世界』

2月4日(火)、SSP中大連携講座の一環として、高知工科大学環境理工学群教授の杉本隆一先生をお招きし、中学2年生を対象としたサイエンスセミナーを開催しました。先生は、『化学が変えた私たちの世界』と題して、映像や実験を交えながら、化学の魅力や、化学が身近なものであることを語り掛けられました。50分という短い時間ではありましたが、生徒たちは、化学のオモシロさや奥深さを感じながら、化学の可能性や社会との関わりについて知ることができたと思います。この講演を通して、理科への興味関心をさらに深め、学習への取り組み方や将来の進路を考える一助となるよう期待しています。

<生徒の感想>

- 化学変化によって、パスタがいろいろなものに“化ける”ことを知って驚きました。また、それに3年もの年月をかけて研究を重ねて、“パスタからつくられた不織布”を開発してきたんだと思うと、自分も成功するまでどんなに年月がかかってもやり遂げたいと思いました。
- 不織布をパスタからつくれることに驚きました。しかも、それをつくった人が、自分たちの目の前で講演してくださっているということがすごいと思いました。
- 今までは、理科はただの勉強としか思っていなかったけど、自分たちの生活を変えたりするものだということが分かりました。化学のおかげで、たくさんの方が飢えから救われ、世界の人口が急激に増えたというのがすごいと思いました。化学がなかったら、今頃全然違う世界になっていたんだろうなと思いました。
- 水の沸点は100℃だと思っていたけど、実は場所によって全然違うんだということが分かりました。沸点が場所によって変わるということは、融点とかも変わってくるのかなと思いました。固定概念にとらわれず、1から考えることができるように意識してみようと思いました。



